

第2回富山きときと空港運営あり方検討会議 議事概要

1. 日時 令和3年11月29日（月）10:00～12:00

2. 場所 富山県庁4階大会議室、オンライン

3. 出席委員

山内委員長、下川委員、中村委員、花岡委員、前田委員、宮本委員、森田委員、渡邊委員、吉田オブザーバー

4. 議事（概要）

（1）潜在需要調査結果の概要について（資料 P2～15）

（2）富山きときと空港の将来像について（資料 P16～21）

<主な意見>

- ビジネス、観光、インバウンド、アウトバウンドの4つのカテゴリのどこに集中するのかを検討する必要がある
- ビジネスという極めて重要な需要はしっかり確保しつつ、観光需要をいかに伸ばしていくかが重要
- 空港そのものも含めて観光という視点があったほうがよい
- ビジネスマンにとって、空港での待ち時間を生産的に使えるかが大きな問題
- 広域的なアクセス等、乗り継ぎについて検討する必要がある
- アクセスの改善や便数を増やすことを求める潜在需要もあるのではないかと
- 運営の効率化を図り、利用者が最も重視しているポイントに、効果的に還元することが重要
- 近隣県民が富山空港を「我が空港」と思う取組みが必要
- 富山空港の名称を飛騨高山や上越の人が自分たちの空港と思い、愛着を持って使ってもらえる名称にするのも一つの考え方
- 空港でのイベント増やすなど、飛行機利用者以外の空港利用者を増やすことが重要
- これまでの取組みの検証も必要であるが、これまでの枠組みで出来なかったところに、民間のノウハウやネットワークを活かす意義があるのではないかと

（3）民間活力導入手法の検討について（資料 P22～24）

<主な意見>

- コンセプションは空港がリードしてきた制度のため、富山空港でも検討に値するだろう
- 民間活力の導入にあたっては、短期的な取組みと中長期の戦略を織り交ぜた考え方が必要
- 県がコントロールできる仕組みを検討する必要があり十分な時間をかけ、幅広く考える必要がある